



子ども大学よこはま
THE CHILDREN'S UNIVERSITY OF YOKOHAMA

2015年度 第2回授業の報告

日時 2015年8月2日(日) 14:00~16:00/場所 慶應義塾大学薬学部

8月2日、「子ども大学よこはま」の第2回目の授業が、慶應義塾大学薬学部で行われました。参加した“学生”は、全部で52名でした。

プログラム

<第2回授業>

「命を救う薬、命を削る薬 ～薬学部の見学と薬剤師体験」
木津純子（きづ じゅんこ）先生（慶應義塾大学薬学部教授）

☆木津純子先生の紹介

けいおうぎじゅくだいがくやくがくぶきょうじゅ やくがくはくし ふぞくびょういん やくざいし
慶應義塾大学薬学部教授、薬学博士。東京大学医学部の附属病院で24年間、薬剤師として働きました。
2000年から今の仕事に。専門は医療薬学、感染症治療です。



<先生からのメッセージ>

薬は、細菌（さいきん）から身を守ったり、機能の衰え（おとろえ）を補ったり、いろいろな働きにより命を救い、守ります。しかしながら、薬は正しく使用しないと、効果が出ないばかりか思いがけない有害反応（やくがいはんのう）が出ることもあります。薬の正しい使い方を知っておくことはとっても重要です。子ども大学では、薬についてきちんと学びます。

★当日は木津先生のほかに、松元一明・小林典子・黒田裕子先生が実習の授業を手伝っていただきました。



授業後のアンケートから

アンケートは出席者52名中48名（92.3%）が提出してくれました。ありがとうございます！

48名の学年別割合は次の通りです。



学年	提出者人数 (人)	割合 (%)
4年生	19	39.6
5年生	24	50.0
6年生	5	10.4
合計	48	100.0



「一番面白かったことは？」

ラムネをつぶしたり、薬作りの実験と回答した人が最も多かったです。

「なるほど！スゴイ！と思ったことは？」

薬を包む袋の作り方・包み方をあげた人がたくさんいました。

「もっと知りたい、聞いてみたい、自分で調べてみたいことは？」

薬の種類や色の違い、など。

「授業を受けての感想」

薬剤師の手洗いの丁寧さ、薬剤師の仕事が分かってよかった、楽しかった、危険ドラッグや麻薬など命を削る怖い薬もあり、使いたくないと思ったなどがありました。



一番面白かったこと	<ul style="list-style-type: none"> ➤ ラムネをつぶしたり、薬作りの実験（30人） ➤ 薬剤師体験（7人） ➤ 薬の包み方（7人） ➤ 薬の種類（2）
なるほど！スゴイ！と思ったこと	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 薬を包む袋の作り方および包み方。（13人） ➤ 器道を綺麗にしたり、薬を飲む人への思いやりなど薬剤師の仕事の大変さ。（3人）
もっと知りたい、聞いてみたい、自分で調べてみたいこと	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 薬の種類や色の違いについて。（5人） ➤ 薬の調合の仕方。（2人） ➤ 本物の薬の作り方（2人） ➤ 薬の開発者や歴史について。（2人）
授業を受けての感想	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 薬剤師の手洗いの丁寧さなど、薬剤師の仕事が分かってよかった、楽しかった。（8人） ➤ 危険ドラッグや麻薬など命を削る怖い薬もあり、使いたくないと思った。（6人） ➤ 実験が楽しかった。（3人） ➤ 薬の凄さ。（2人）

なお、くわしい結果はホームページに載せてありますので、そちらをご覧ください。